

看護師職能委員会 I・II

はじめに

徳島県看護協会看護師職能委員会は、「病院領域」(領域I)と「介護・福祉関係施設・在宅等領域」(領域II)の2領域の活動を行っています。日本看護協会の活動方針や重点事業などを会員に周知し現場の意見を集約する意見集約機能と課題発見機能を有していますので、様々な機会に皆様のご意見をお聞かせください。

全世代型地域包括ケアにおける看護機能の強化

- 1.三職能合同研修会
- 2.次世代育成支援イベント「おぎゃっと21」
- 3.看護師職能II 活動報告・研修会「在宅訪問時における暴力やハラスメントの現状とその対応」

日程 令和6年11月23日 参加者 35名

講師 医療法人社団慈恵会北須磨訪問看護リハビリセンター 所長 藤田 愛 先生

内容や学びについて

近年現場で誰にでも起こりえる暴力やハラスメントについて、具体的な内容とその防止対策や対処方法、そして暴力の被害を受けた人への対応について学びました。ハラスメントなどを受けた経験がある参加者も多く、GWを通してより具体的な内容が話し合われました。これからは職員が安心して働くことのできる職場環境の確保をはかるためにハラスメントに屈しない管理者の考え方が印象的でした。



専門性を高める生涯教育の推進

看護師職能I 活動報告・研修会

「疲れた心を癒すセルフコンパッション～頑張っている私たちに今必要なこと～」

日程 令和7年2月24日 参加者 会場20名、WEB22名

講師 徳島赤十字病院 精神看護専門看護師 藤田 裕美 先生

感情労働とも言われる看護師の仕事の中で、困難な状況の中でも前向きな気持ちを持ち続けられるように、自分自身に思いやりと慈悲を向けるセルフ・コンパッションについてご教授いただきました。今の自分を大切にすることは、組織をも思いやり、大切にできる文化につながることを再認識できた研修でした。



《令和6年度 看護師職能委員会委員》

- 【委員長】宮本 美恵(徳島県立中央病院)
- 【副委員長】藤原都志子(複合型サービス事業所あい)
- 【委員】大西 由香(藍里病院) 戸田 伴江(徳島市民病院) 切佐古幸代(徳島県立三好病院)
- 辻 敬子(きたじま田岡病院) 岩本 真理(徳島赤十字病院)
- 常陸多佳子(国立病院機構 とくしま医療センター西病院)
- 細川千恵美(たまき青空病院) 横関恵美子(四国大学看護学部)
- 【担当理事】鈴記 洋子(徳島県看護協会 第一副会長)



発行

公益社団法人 徳島県看護協会 職能委員会

発行日

2025年3月31日



2024年度 職能委員会だより

徳島県徳島市北田宮1丁目329-1 088-631-5544

保健師・助産師・看護師 三職能合同研修会

医療的ケア児における病院と地域との継続ケアと多職種連携

日程 令和6年9月21日(土)9:00~12:00 参加者 63名

講師 徳島県医療的ケア児等支援センター コーディネーター 渡部 尚美 氏

各職能からの発表・グループディスカッション

- 保健師職能 徳島保健所 感染症・疾病対策担当 加治 明子 氏
- 助産師職能 徳島大学病院 総合周産期母子医療センターGCU 田中 章子 氏
- 看護師職能 訪問看護師 松浦美由紀 氏



渡部コーディネーターから、多職種連携とは、「おもいを伝え」「もくひょうを共有する」「できることから始め」「なにも正解はないと知る」「しあわせを届ける」つまり『おもてなし』であると学びました。医療的ケア児が地域で当たり前のように生活できるように社会的資源と人材育成が必要であることが分かりました。「徳島県内における医療的ケア児の現状や問題点を学ぶ有意義な研修だった」と参加者から多くの感想を頂きました。

次世代育成支援イベント

おぎゃっと21

日程 令和6年9月29日(日)9:30~17:00

場所 アスティとくしま

《メインテーマ》
心とからだ、より豊かに、より健やかに
《サブテーマ》
「つながり作り」おぎゃっと21でみんなで笑顔の輪を広げよう!



5年ぶりに開催された、みんながつながる子育て支援イベントおぎゃっと21に、公益社団法人徳島県看護協会は、4ブースを設置し、看護協会職員・三職能委員・学生と共に参加しました。

- ♥「乳幼児身体計測」参加者299人 赤ちゃんから小学生までの測定を実施し、子どもたちの成長をご家族と共に喜び合い確認をしました。
- ♥「命の授業」参加者255人 命の授業では、命の始まりのはなしを真剣に聴く子どもの真剣なまなざし、産道体験では、「がんばれ、がんばれ」と声をかけ、生まれた時には、みんなで「おめでとう」と拍手と笑顔で赤ちゃんの誕生を喜ぶ体験ができていたようでした。
- ♥「健康相談コーナー」参加者213人 骨健康度測定・血管年齢測定・脳年齢測定により、楽しみながら生活習慣を振り返るきっかけとなりました。
- ♥「看護師さんに変身コーナー」参加者108人 看護師さんに変身した子どもたちは、まるでモデルのようにお気に入りのポーズをして親御さんに写真を撮ってもらっていました。参加者も子どもたちにパワーをもらい充実した1日になりました。



*親御さんの同意を頂いております

保健師職能委員会

はじめに

未来を拓く保健師活動のために今できること

保健師職能委員会は、『全世代型地域包括ケアにおける看護機能の強化に向け、保健師の専門性の向上とキャリア形成の推進』を目標とし、保健師の専門性向上のための研修会並びに保健師間の連携強化のための職能集会などの活動をしています。2040年の超高齢化社会、生産年齢人口の減少を見据え、時代の要請に応じ、今後の保健師活動はどうあるべきかを考え、未来を拓いていく時期にあります。会員を拡大し仲間と共に、保健師が地域でいきいきと活動できることを目指し、保健師職能委員会活動を続けています。

医療的ケア児における病院と地域との継続ケアと多職種連携

日程 令和6年9月21日(土)9:00~12:00 参加者 63名

保健師職能から、保健所における小児慢性特定疾病児童への支援と課題を報告させていただきました。各職能の報告から、医療機関で使用している「NICUから始まる小児在宅移行支援パス」や訪問看護における現状と課題を知ることができました。グループディスカッションでは、医療的ケア児支援における今までの点でのつながりが、線や面へと広がるきっかけとなる連携をつくることができました。

保健師・助産師・看護師 三職能合同研修会

ランチミーティング

日程 令和6年11月1日(金)12:00~12:55 参加者 新任保健師64名

新任(1年目~3年目)保健師を対象に軽食を取りながら、新任保健師同士で、仕事上の困り事の話し合いや交流を図りました。報告では、看護協会並びに保健師職能委員会の活動報告、看護協会の委員会として活動している新任保健師から委員会の概要と活動しての所感を報告しました。新任のアンケートでは、個別支援やコミュニケーション、業務の全体像の把握や効率化等に悩みを抱えている状況がわかりました。今後も、県と市町村保健師の交流を希望する声が多くありましたので、引き続き、新任の悩みに寄り添い、共に考える機会を創っていききたいと思います。

保健師職能集会

自治体保健師の活動内容や魅力発信のイベント

日程 令和6年11月3日(日)13:30~16:00 参加者 看護学生20名、自治体4か所

県内において保健師確保に苦慮している市町村があることや2040年を見据え保健師の確保が不可欠であることから、看護学生等を対象に、保健師の活動や魅力を自らの言葉で伝えるプレゼンテーションと自治体保健師との相談会を開催しました。参加自治体は、徳島県、北島町、板野町、東みよし町でした。

参加した看護学生は、熱心に保健師の業務について質問し、相談を受ける保健師も熱く語り、会場は熱い思いと笑顔に包まれました。次回は、さらに多くの自治体のご参加をお待ちしております。



熊本地震から学ぶ保健事業の再開と課題～母子保健事業再開後の課題と対応～

日程 令和6年12月10日(火)13:30~15:30 参加者 32名

講師 熊本市こども支援課技術主幹兼こども健康班主査 馬本 春美 先生

頻発する自然災害を受け、発災直後の対応のみならず、中長期間の支援についても知っておく必要があることから、熊本地震における母子保健事業の再開と課題を学び、災害への備えを考える研修を開催しました。

熊本地震の体験を踏まえ、母子保健事業再開の目安やアンケートの実施など、貴重なお話を聞かせていただきました。また、平時においても、保護者の不安が子どもに影響することから、予防的関わり強化としてパンフレット「子育てに取り入れたい8箇条」を紹介いただき、とても参考になりました。

保健師スキルアップ研修会

《令和6年度 保健師職能委員会委員》

【委員長】浦西 由美(徳島保健所) 【委員】原 美智代(美馬保健所) 加治 明子(徳島保健所)
【副委員長】岡久 玲子(徳島大学) 榎原 陽子(阿南保健所) 村橋 丈彦(鳴門市)
【担当理事】鈴記 洋子(徳島県看護協会 第一副会長)

助産師職能委員会

はじめに

全ての母子にとって安心・安全な妊娠・出産・育児環境を提供できる体制づくりとして、母子のための地域包括ケアを推進し、働く環境、子育て環境の両面から、妊産婦とその家族への切れ目のない支援を提供できることを目標に活動しています。今年度は、専門性の向上を中心に「アドバンス助産師」の現状把握や今後の展望を主体として、また、三職能を含め多職種連携として「継続ケア」を考える機会として研修会を開催しました。

アドバンス助産師の役割と展望 (CLOCMiレベルIII選択研修)

日程 令和6年8月31日(土) 参加者 35名

講師 総合母子保健センター愛育病院 石川 紀子 看護部長

日本助産評価機構の監事でもある石川看護部長にご講演いただきました。アドバンス助産師は、教育として各施設のキャリアラダーに位置づけることで、経験を積んだ先におのずと獲得できるような仕組みを作ることが必要であると熱く語っていただきました。また、助産師自身がアドバンス助産師としての自覚と自信を持ち、組織や医師にアピールすると共に管理者の認知・応援が必要であることがわかりました。助産師だけでなく、組織の管理者にも参加いただきよい機会になりました。

第1回助産師職能研修会



医療的ケア児における病院と地域との継続ケアと多職種連携 (CLOCMiレベルIII選択研修)

日程 令和6年9月21日(土)9:00~12:00

参加者 63名(保健師11名・助産師21名・看護師31名)

助産師職能として徳島大学病院総合周産期母子医療センターGCUの田中章子さんが現状を発表されました。NICU入院中に活用している『在宅移行支援パス』を紹介頂き、入院時あるいは妊娠期(入院前)から在宅移行支援は本来開始されることが望ましいということがわかりました。医療的ケア児と家族を中心としたケアのあり方、また、ケアの継続性のためにも訪問看護師や保健師といった地域での支援者との連携を含めた退院前後訪問の必要性についてもご紹介いただきました。

保健師・助産師・看護師 三職能合同研修会



周産期における急変時対応と多職種連携 (CLOCMiレベルIII必須研修:S01急変時の対応)

日程 令和7年1月11日(土)13:30~15:30 参加者 34名

《助産師職能委員会活動報告》職能委員長 森内 洋美

《研修会講師》愛媛県立中央病院 総合周産期母子医療センター 副センター長 阿部恵美子 先生

総合周産期母子医療センターで、日々母子の急変対応に関わる経験をふまえた講義をしていただき、母体急変時の初期対応の重要性について学ぶことができました。産科救急で一番多い出血性ショック時における対応など、正常分娩であったとしても、事前の準備やアセスメントが非常に重要であること、鑑別するための知識の必要性、予測不能な事態に備えた平時の心構えや準備の重要性を改めて感じました。社会の変化と共に変化している周産期の対象に対応できる助産師であり続けるために、知識とスキルをブラッシュアップすることの必要性を痛感しました。

令和6年度助産師職能交流集会および第2回助産師職能研修会



《令和6年度 助産師職能委員会委員》

【委員長】森内 洋美(徳島大学病院) 【委員】富士本里美(吉野川医療センター) 伊丹 恵美(阿南医療センター)
【副委員長】橋本 美歩(県立中央病院) 村井 芳江(徳島市民病院) 竹田 紀子(徳島赤十字病院)
【担当理事】鈴記 洋子(徳島県看護協会 第一副会長) 山田 良恵(町立半田病院) 元木沙耶花(徳島県鳴門病院)